



中泊 バイオマスプロジェクト

中泊町の十三湖土地改良区（野上憲幸理事長）は、子供たちに環境保全への関心を高めてもらおうと、「十三湖菜の花バイオマスプロジェクト2008」に取り組んでいる。休耕田に栽培した菜の花で菜種油



を作るほか、廃食用油のバイオディーゼル燃料（BDF）化を目指す。28日は薄市小学校児童らが下高根地区の水田で菜種の収穫体験を行い、菜種油の生産が地球温暖化防止につながることを学んだ。

児童らが菜種収穫

温暖化防止へ知識深める

同改良区は遊休農地
域民局、県土地改良
の有効利用、二酸化炭
事業団体連合会の職員
素（CO₂）の排出量
ら約四十人が参加し
削減、ガソリンの代替
燃料生産を目指し、二
〇〇七年度から菜
良浩二管理係長が、菜
の花バイオ利用技術実
証調査を開始。弘前市
の東北農政局北奥羽土
地改良調査管理事務
所、弘前大学農学生命
科学部と合同で、菜の
花の試験栽培やBDF
を使ったトラクター
の試験運転を行ってき
た。

同プロジェクトは、
薄市小の放課後こども
プランの中で実施。こ
の日は児童と保護者、
同管理事務所、西北地
画している。

初めに同改良区の江
良浩二管理係長が、菜
の花の栽培によりCO
2が吸収されることな
どを説明。

児童は大人の手を借
りながら菜種を収穫
し、三年の秋元美月さ
んは「どんな色の油が
できるのか楽しみ」と
話した。

今回は乾燥させた菜
種を搾って油を作り、
参加者に配布する予
定。ある程度の量が取
れた場合は商品化も計
画している。

地球に優しい油だね